

ミトコンドリアを活性化させる可視総合光線療法

一般財団法人 光線研究所

研究員 佐藤 仁

所長 医学博士 黒田 一明

私たちが生きていくための食物の消化吸収、呼吸、血液循環、新陳代謝などにはエネルギーが必要です。思考、感情や運動などにもすべてエネルギーが必要です。この膨大なエネルギーを作っているのが、細胞にあるミトコンドリアです。ミトコンドリアの働きは、私たちの生命維持の根本的な働きをしており、病気を治すにも必須な器官です。そしてミトコンドリアの働きを活性化させるのに、太陽光や可視総合光線療法の光と熱が大きく関わっています。今回は症例とともに、ミトコンドリアの解説をします。

■ミトコンドリアとは

ミトコンドリアは、赤血球以外のヒトの細胞すべてにある小器官で、1細胞あたり100個から2000個程度含まれます。酸素を使い糖や脂肪を分解し、エネルギーを作り出します。これに対して酸素を使わないで糖からエネルギーを作るしくみを「解糖」といいます。

太古の酸素がない地球では、生物は解糖によりエネルギーを作っていました。その後、光合成により酸素を放出する生物が増え、大気中に酸素が増えてくると、酸素を取り込んでエネルギーを作る生命体が出現します。それがミトコンドリアです。そして、酸素を利用できなかった生物が、酸素を使ってエネルギーを作り出すミトコンドリアを細胞内に取り込んで進化し、現在に至っていると考えられています。

■ミトコンドリアの働き

人間は多くのエネルギーが必要で、解糖だけではエネルギーが枯渇してしまいます。しかし、ミトコンドリアは、解糖によるエネルギー産生の20倍程のエネルギーを作り出すことができます。ミトコンドリアの数が多く働きが良好なほど、酸素を取り込みながら多くのATPと呼ばれるエネルギーを作り出します。このATPにより、まず熱エネルギー産生を促進し、冷えや低体温が改善されます。さらにATPによって疲れ難く、長時間運動が可能になったり、免疫力がアップし病気にかかり難くなったり、病気の治りが良くなったり、美容効果や老化を抑えることにもつながります。ミトコンドリアの数と機能が落ちれば身体の全機能は低下します。慢性疲労、慢性疾患や精神疾患、老化、ガンなどとも関連があります。ミトコンドリアの数と機能を高めることが健康で元気な生活ができることにつながります。

■ミトコンドリアとガン

ガン細胞は、細胞への糖の取り込みが異常に高いことから、PET検査は、この性質を利用して糖が身体のどこに多く集まっているかを調べ、ガン診断に利用します。ガン細胞で糖の取り込みが異常に多い理由は、ガン細胞ではミトコンドリアが機能異常となり、効率の悪い解糖でエネルギーを作るので、糖が大量に使われるためです。まずミトコンドリアが機能異常を起こさないようにすることが細胞をガン化させないために大切です。ミトコンドリアが機能異常を起こす原因は、低体温や酸素不足、ウィルス、慢性炎症などがあります。ミトコンドリアは、異常な細胞を消滅させる機

能がありますが、ミトコンドリアが上手く機能しないと異常な細胞が増殖してガン化してしまいます。身体が冷えて、低体温では一層ミトコンドリアの働きが鈍くなるので、ガン細胞の増殖が進みやすくなります。

■ミトコンドリアと老化

加齢によって筋肉量減少や筋力低下、運動機能低下、内臓機能の低下、認知機能低下などが起こってきます。いずれも、加齢によるミトコンドリアの減少や機能低下で、細胞を動かすエネルギーの産生が減少することで起こります。つまりエネルギー不足が老化の進む原因です。加齢による老化を抑えるには、生命活動に必要なエネルギーの産生を増やすこと、つまりミトコンドリアの量と機能を高めることです。エネルギーが豊富であれば、老化の進行を抑え若々しくいることが可能です。

そのためには筋力アップやウォーキング、ジョギングなどの有酸素運動なども有効ですが、日光浴や光線療法も併用するとよりミトコンドリアの機能アップにつながります。

■ミトコンドリアと光線療法

ミトコンドリアは体温 37℃で最も活性化するとされています。低体温下では、ミトコンドリアの活動が弱まり、ATPの生成力が落ちます。身体を温めると免疫力が上がるというのは、ミトコンドリアの働きが良好になりエネルギーが増え、免疫細胞の働きも良くなるからです。可視総合光線療法の温熱作用は、身体を温めミトコンドリアが働きやすい状態にします。また日光や可視総合光線療法に含まれる紫外線で産生されるビタミンDは、ミトコンドリアの働きを活性化させエネルギー生産量を増加させることが判っています。ビタミンDは、ミトコンドリアにダメージを与える慢性炎症を抑制する作用もあります。さらに可視光線もミトコンドリアの働きを活性化させます。つまり、日光や可視総合光線に含まれる紫外線・可視光線・赤外線が総合的に働いてミトコンドリアの働きを活性化させ、生命活動に大切なエネルギーの産生を増やすことが、私たちが健康で若々しく元気であることにつながります。

■光線治療方法

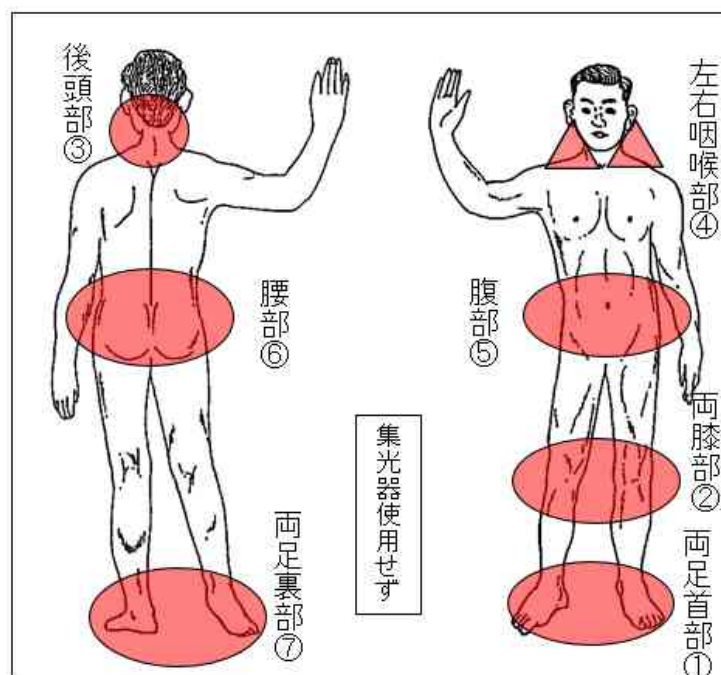
◆治療用カーボン：ミトコンドリアを活性化させる紫外線・可視光線・赤外線は、どのカーボンにも含まれているので、どのカーボンを使っても、ミトコンドリアは活性化されます。

具体的には、病気や症状に合わせたカーボンの組み合わせで対応します。冷えが強い場合や体力が低下している場合は、照射時間や照射回数を増やし、長期的な照射が必要になります。

◆照射部位及び照射時間：両足裏部⑦10分間、両足首部①・両膝部②・腹部⑤・腰部⑥（以上集光器使用せず）、後頭部③（1号集光器使用）、左右咽喉部④（2号集光器使用）各5分間。症状がある部位を各5～10分間追加。

体のエネルギー不足やよりエネルギーをより

多く必要とする様な疾患（ガンなどの悪性疾患）の場合、照射時間や照射回数、照射期間を適宜増やす必要がある。治療器の台数を増やすことも、ミトコンドリアをより活性化させ、エネルギー産生を増やすことに効果的。光線治療中に深呼吸を行い、酸素を十分取り入れるのも有効。



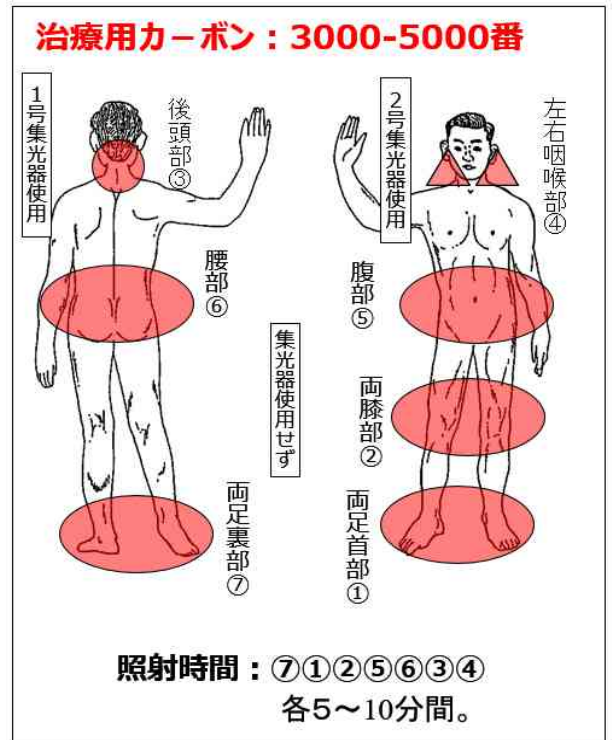
【治療例1】 だるさ・疲労感 39歳 女性 主婦 身長 161cm 体重 52kg

症状の経過

子供のころからだるさ・疲れやすさ、寝付きの悪さ、頭痛、冷えなどがあり、学校もやっと通学していたが、病院の検査では特に異常はなかった。28歳の時に結婚したが、だるさと疲れやすさで家事もやっと行っていた。30歳の時に知人に光線治療の話聞き、当附属診療所を受診した。

治療の経過

体力的に通院は難しいので、光線治療器を用意し自宅治療を始めた。1日1回の治療では全く温まりを感じないので1日2回治療をしたところ、体が温まるようになってきた。半年ほど治療して疲労感は少なくなってきた。その後は年単位でだるさ・疲れやすさ、寝付きの悪さ、頭痛は改善されて、8年後には冷えやすさはあるもののそれ以外はすべて解消された。家事もしっかりできるようになった。仕事も始めて通勤で片道30分歩き、毎日のジョギングや週1のスポーツジムにも通えるようになっている。



当所での治療



◆コメント：この方は、当所で測定している血管年齢や骨量や自律神経の数値はいずれも悪くありませんでした。病院での検査でも何も異常が無かったことから、ミトコンドリアの働きが悪くてエネルギーが不足していた状態だったのではないかと考えられます。

【治療例2】乳ガン術後（トリプルネガティブ） 79歳 女性 主婦 身長 147cm 体重 50kg

症状の経過

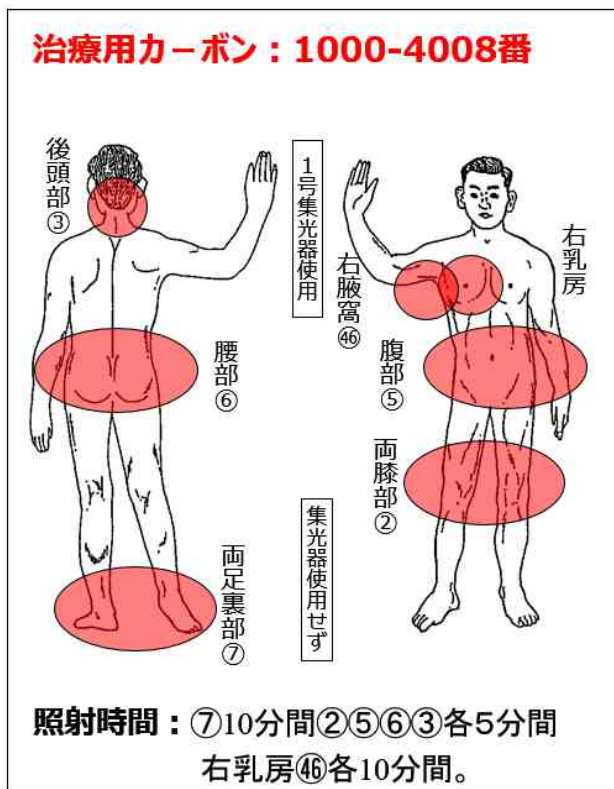
乳腺症を指摘されていたので、定期検査を受けていた。66歳のときに右乳房にガンが見つかり、たいへんショックを受けた。手術前に抗がん剤治療で縮小させてから手術することになった。光線治療は両親が使っていたので、何かあれば使っていたが、今回効果的な治療の指導を受けるために当附属診療所を受診した。

※トリプルネガティブ乳ガンとは、ホルモン剤などの治療に反応する受容体が3種類ともない乳ガンで、有効な治療方法がない。3年以内の再発率が非常に高く、再発後の生存期間が他のタイプの乳ガンに比べ短い乳ガン。

治療の経過

自宅で朝晩治療を続けた。半年間の抗ガン剤治療後、温存手術を受け、放射線治療を行った。ガンは完全に取れて、リンパ節転移も無かったので、光線治療のお陰だと思った。しかし、ガンのタイプがトリプルネガティブと聞いてとても不安になった。術後の病院の治療方法もないので、光線治療しかないと思い治療を続けた。3カ月毎の検査を受け、毎回不安だったが丸3年経って異常がなく少しほっとした。さらに光線治療を継続して、現在術後12年経つが再発はなく、光線治療のお陰とたいへん感謝している。

当所での治療



◆コメント：ガン細胞はミトコンドリアの機能異常があるので、再発予防にはミトコンドリアがよく働くようにしておくことが大切です。ミトコンドリアがよく働けば、免疫細胞にもエネルギーが補給され、免疫力も強化されます。

【治療例 3】 高齢でも若々しく元気 女性 96歳 身長 153m 体重 47kg

症状の経過

長年慢性扁桃炎があり毎月のように風邪を引いていた。甲状腺機能低下症もあった。40代のころ左右の肋軟骨に良性の腫瘍があり、時々痛みがあったので、左側は手術した。また腎結石があり、手術したが再発していた。光線治療は50代のときに、茶道を教えている生徒から話を聞き、色々な病気や健康維持に良さそうなので、早々自宅治療を始めた。

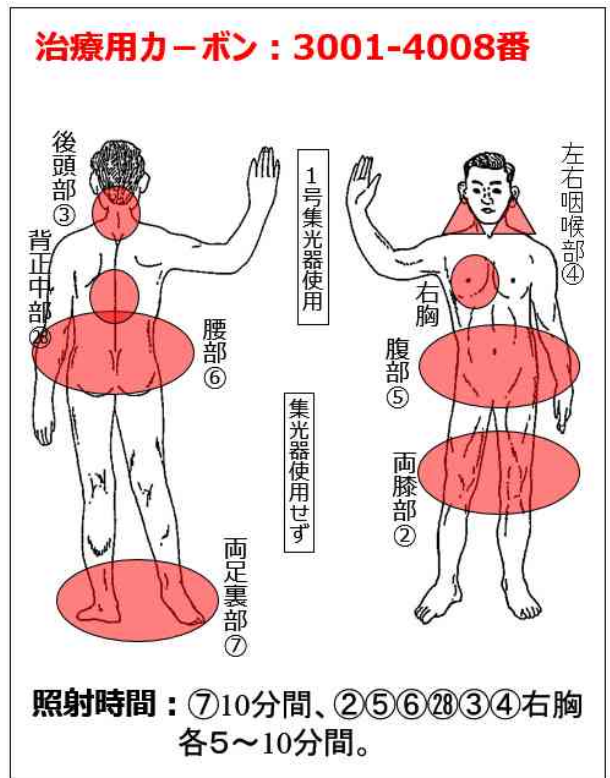
治療の経過

光線治療を始めて、扁桃炎を起こさず風邪も引かなくなった。右の肋軟骨腫瘍は痛みが続いていたが、光線治療で痛みがなくなった。再発した腎結石も痛みがないので経過観察となった。

70代のときに、石灰化と言われていた左乳房のしこりを手術した。ガン細胞が見つかったが、その後はホルモン剤と光線治療で再発はない。長年血圧が高く降圧剤を服用していたが、80代のときに安定したので降圧剤が中止になった。高齢になり膝や腰が痛むことがあるが光線治療を行うとすぐに治った。

現在 96 歳だが、とても若々しくて、たいへん元気だ。茶道・華道の指導は 70 年近く続けている。元気でいられるのは 40 年近く続けている光線治療のお陰だと思っている。

当所での治療



◆コメント：長年光線治療を続けていることで、ミトコンドリアが活性化され、困っていた症状が改善できたり、何より高齢になっても若々しく元気で仕事も続けていられるという良い症例です。